

建築主：田邊 節子、田邊 政裕
設 計：田邊曜建築設計事務所
施 工：株式会社 辰
所在地：千葉市中央区旭町18-5

入 賞

一般建築物の部

診療所通いという高齢者の贅沢

旭町診療所

330㎡強のL字型敷地に建つ地域の診療所である。純白のイエ型トンネルが前面道路に口を開けている。形態の明快な操作で、白くて光に溢れ、伸びやかなイエ型のトンネル空間を内部に創出することに成功している。

L字型の単純なポリウムを原形とし、それを削ったりずらしたりすることで空間に濃淡を与えている。待合いは、決して広いわけではないが、天井が高く、ポリウムをずらす操作でできた入り隅に、外殻のずれから光が注ぎ、落ち着ける場所をつくりだしている。思わずうたた寝する人もいるという。それだけに、診療効率優先の診察室に入ったときのギャップが気になった。診察室を複数設け、将来的に地域医療の実習を受け入れるゆとりある建物となっている。

小さな庭を挟んで薬局(土地のオーナーは同じ)と隣接している点も恵まれている。今日、平日の住宅地に日中目立つのは、高齢者の姿である。そこそこ元気でも、診療所と薬局通いが生活にリズムを与えているという人も少なくない。「行き先で、日常とはちょっと違った素敵な空間体験ができることの贅沢さ」に好感の持てる小品だった。これからの高齢化社会、こうした地域の診療所が、実質的にはコミュニティの核になっていくのだろうか。

(岡部 明子)



東側からの全景(昼景)



ラウンジ1・2 内観

(撮影/新建築社)

建築主：医療法人社団 中郷会 新柏クリニック
設 計：株式会社 竹中工務店
施 工：株式会社 竹中工務店
所在地：柏市新柏1丁目6番地

入 賞

一般建築物の部

～クリニックと視覚的、体験的に応答する、ランドスケープ～

新柏クリニック めぐりの庭

この新たに整備された患者・家族専用の「めぐりの庭」は、第1期で建築として高い評価を得た木造の透析医療施設(2016年千葉県建築文化賞優秀賞)と視覚的、体験的に応答する、第2期の癒しのランドスケープである。なだらかな起伏のある巡回型の通路は、運動療法の空間としてデザインされた。また、生物多様性に配慮した多彩な樹木や草花等で彩られた植栽は、クリニックからの視線を心地よく受け止めている。その林には、ワークショップで制作された巣箱が吊され、生き物にとっても豊かな居場所となることが計画されている。それらは、今後の成長と育成によって、近隣の生活環境の改善に寄与するはずである。

さらに、介護材料置き場と介護事務室からなり、深い庇によって水平線を強調した切り妻木造平屋の美しく印象的な建物が、敷地の西端に沿って配置されている。これは、「めぐりの庭」の起伏に呼応するアイストップであるとともに、すぐ近傍の西側を走る鉄道の修景としての役割も果たしている。

同施設は今後も継続して環境整備が予定されており、それらと合わせた地域ぐるみの総合的な機能と環境の熟成が、高齢化社会に求められる医療サービス空間のモデルとして大いに期待される。(岩村 和夫)



ひとがめぐり 生きものがめぐりくる庭



患者を迎え入れる「巣箱」の外観

(撮影/宮下潤)